

はにい「食材」が「料理」に変わる時 平成27年4月17日

全国中学生創造ものづくり教育フェア「あなたのためのおべんとう」
コンクール部門の当日。



チーム「こいわし」の3人は、緊張した面持ちで自分たちの調理台を確かめました。

「調味料はここに置くね」「はい」
「火力は、こんな感じかな?」「そうだね」
慣れない会場のなかで、それぞれが「自分」の役割を確認します。

「調理を開始してください!」の運営者の声が響き、会場内の空気が一斉に動き出す。

食器を扱う金属音と食材を洗う水の音のみが聞こえる会場。

しっかりと身支度された姿からは、仕事に集中する鋭い目だけが見えます。



思い起こせば夏のレポート提出から、11月の神奈川県大会と勝ち抜いてきた3人。目と目で合図し、あうんの呼吸で調理を進めていく姿から、どれだけ練習を重ねてきたかがうかがえます。

その見事な共同作業は「食材」をみるみる「料理」へと仕上げていきます。衛生的でひんやりとした会場は、気がつけば、ほわっと温かい、旨味漂う優しい空気に包まれていました。



完成したお弁当を前に、カメラに向かってプレゼンテーションを行う3人。「入れ歯が1本もない自慢の祖母のために作りました!」「美味しい魚料理を主菜にして横須賀の食材をふんだんに使いました!」「家庭科で習った栄養の大切さを考えました!」と制限時間の1分以内に思いを込め、最後に笑顔で「支えてくださった皆さんに感謝しています。ありがとうございました!」と締めくくりました。